

啐啄同機

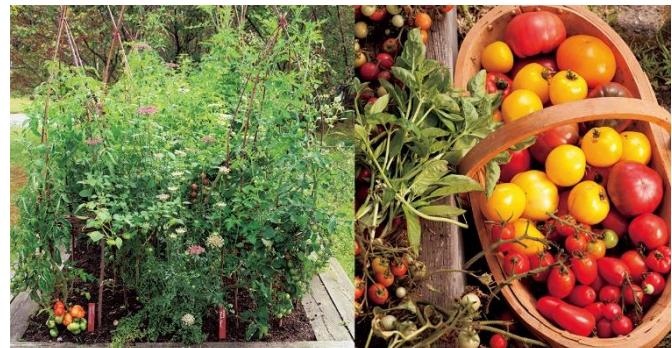


大阪市立榎本小学校
9月22日
NO. 15

お互いに成長する

コンパニオンプランツとは、農学や園芸学において、近くに植えることでお互いによい影響を与える植物のことです。「共存作物」「共栄作物」とも呼ばれています。

例えば、虫がつきやすい食用植物と、害虫を寄せ付けないハーブと一緒に植えることで、作物を順調に育てることができるそうです。うまく組み合わせることで、農薬や肥料の使用の削減にも効果があると言われています。よく知られている例としては、「トマト」と「バジル」の組み合わせがあります。



同じように、人間関係においても一緒にいると良い影響を与える組み合わせが存在するものです。お互いに長所を引き出し、短所を補い合える仲間が多いほど成長のスピードが早まります。

人が人に与えられる最高の贈り物は「相手を認めること」という言葉があります。人から認められることで、人は優しくなれます。うれしくなって仕事や作業へのモチベーションが上がります。その結果、自分に対する自信も高まり、人にやさしくできます。

ただ、人間の場合は植物ほど簡単ではありません。その関係性は、複雑になります。「気が合わない」と思った人が、意外に自分の良さを引き出してくれる。「一緒にいて楽しい」と感じる者同士が集まても進歩が見られないこともあります。第一印象が悪かったのに、相手の良さが段々と分ってきて、親友になったという話もよく聞きます。

植物も人間も、それそれがみな違うものです。人間同士がお互いに良い影響を与えるためには、お互いの違いを認め尊重しあい、つながりを深めていくことが必要ではないでしょうか。



相手との相性はすぐにはわかりません。第一印象が全てではありません。

自分にとって「コンパニオンプランツ」とはどういう人なのか、そして、そのような人に出会うにはどうすればいいか考えてみてはいかがでしょうか。